

未来都市創造に関する特別委員会行政調査報告（令和元年度）

未来都市創造に関する特別委員会委員長 高瀬 勝也

1. 日程

令和2年1月30日～1月31日

2. 調査項目：

- (1) 新たなモビリティサービスと移動手段の多様化について（名古屋大学 未来社会創造機構）
- (2) 駅前のまちづくりとミュージアム川崎シンフォニーホールの運営状況等について（神奈川県川崎市）

3. 委員長所見

- (1) 新たなモビリティサービスと移動手段の多様化について（名古屋大学 未来社会創造機構）

○目指す社会

超高齢社会のなかで全ての人が地域差・個人差なく、いつまでも社会の現役として活躍できる社会を実現するため、高齢者が自らの意思でいつでもどこへでも移動でき、高齢者の外出頻度と社会参加率が増加し、主観的幸福感が向上する「高齢者が元気になるモビリティ社会」実現を目指す。

○ゆっくり自動運転の活用

低速度で人や社会と協調する自動運転技術で無人運転による地域内移動サービスを提供時速 20 キロ以下で走行する。

（車体）トヨタ COMS の改造車、ゴルフカート、トヨタアルファードの改造車など
（活用例）

- ・近距離サービス用バス 公園や都心部、キャンパスなどを走る無人循環バス
- ・ラストマイル交通 バス停・移動販売所・集会所などと自宅との間に小型 EV を配車

（公道走行実験）

- ・ラストマイル交通

中山間地域：豊田市足助地区（2017年）

ニュータウン：春日井市高蔵寺（2018年、2019年）神戸市北区（2020年3月予定）

- ・巡回交通

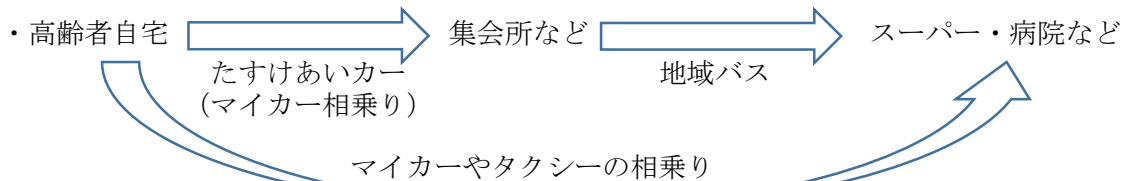
中山間地域：豊田市稲武地区（2018年）

都市部：神戸市中央区税関付近（2019年）

○モビリティブレン드의導入

モビリティブレードとは移動サービスの統合化だけでなくカーシェア、ライドシェア、自動運転車シェアなど地域に適合した新しい移動サービスを導入し、既存手段とブレンドしたサービスとする。また、交通不便地域における高齢者など交通弱者を主なターゲットとし、住民の社会参加促進とコスト低減のために「共助」を取り入れる。

【足助地区における導入例】



- ・このシステムを利用するための専用タブレットを住民に配布
- ・地域 IC カードによる地域ポイントで決済

○産官学の連携（高蔵寺スマートシティ推進検討会）

産官学による連携でニュータウンの魅力向上と持続可能なまちの実現を図るもの。主な参加者は春日井市，名古屋大学，KDDI 総合研究所，名鉄バス㈱，春日井タクシー組合など。

ゆっくりカートによるラストマイルサービス実験のほか相乗りタクシー実証実験を実施。

○所感

本市北区において住民主体でタウン内近距離輸送交通実験が行われたように，自動運転の技術向上は，今後の生活に欠かせないものとする。都市の魅力向上のためにも市民や来街者に対して MaaS を含めた最適な移動手段をいかに提供できるかという重要な課題に向き合うため本市においても積極的な取組が必要と考える。



(2) 駅前のまちづくりとミュージア川崎シンフォニーホールの運営状況等について（神奈川県川崎市）

○新しい都市イメージの中心として整備

川崎駅西口地区第一種市街地再開発事業として、新しい都市イメージ「音楽の街・川崎」を世界に発信する「ミュージア川崎シンフォニーホール」などを整備。音楽のまちを目指した背景は、市内に2つの音大、4つの市民オーケストラ団体、100以上の合唱団など音楽資源が豊富にあったことである。東京交響楽団がフランチャイズとして利用しており、約1997席を有している。また取得費は約217億4千万円であった。

○運営実績

- ・音楽ホールについては平成30年度は大規模修繕による休館があったが、日数利用率は99%と前年並み、入場者率は76%と前年を上回っていた。また市民交流室の利用率は98%と前年を上回っていた。
- ・法人や個人の協賛会員とチケットの早期購入が可能な「友の会」会員がいる。

○ホールの特徴

ステージの周りを客席がぐるりと取り囲む形式で、どの座席からでも美しい音が聴けるよう設計されている。またステージとの距離が近いこと臨場感たっぷりであること、そしてクリアな音質がホールの特徴である。

○所感

本市ではバスターミナル予定地に2000席程度のホールを、また2号館跡地に音楽専用ホールを計画している。ハード面ではホール内の臨場感やクリアな音質を求めるとともに、ソフト面ではフランチャイズの楽団や他ホールとの連携による演奏家の誘致を行うなど、利用率を向上させる取組みが不可欠であり、今後の整備計画等に当たってはその点を踏まえ取組んでいただきたいと考える。

